

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成19年 12月24日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4272200157
法人名	有限会社 グループホーム翁頭
事業所名	グループホーム 翁頭
所在地	〒853-0024 長崎県五島市野々切町253番地1 (電話) 0959-75-5311

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本福祉医療評価支援機構		
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島2丁目7217 島原商工会議所1階		
訪問調査日	平成19年12月5日	訪問調査日	平成20年4月1日

【情報提供票より】(平成19年11月 1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 17年 3月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤	8人, 非常勤 9人, 常勤換算 15.8人

### (2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り		
	1階建ての	1階 ~	1階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	12,000 円	その他の経費(月額)	実費	
敷金	有( 円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	250 円
	夕食	320 円	おやつ	30 円
	または1日当たり 円			

### (4) 利用者の概要(11月 1日現在)

利用者人数	18名	男性	8名	女性	10名
要介護1	6名	要介護2	4名		
要介護3	1名	要介護4	4名		
要介護5	1名	要支援2	2名		
年齢	平均 85.1歳	最低	64歳	最高	98歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	聖マリア病院 ・ 才津歯科医院
---------	-----------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

山道の集落を上った中腹にある当ホームの窓から望む湾岸は、四季を織りなす一幅の絵のように美しい。ホーム内の玄関ホール・廊下・リビングは、広く明るいゆりの空間を作り出している。生活する入居者の表情は穏やかで明るく、敷地の中には畑が造られ、入居者の意欲の創出、収穫の喜びと味わい、楽しみの支援となっている。又、二つのユニットは渡り廊下で繋がり、大きな透明ガラスからは、向かい側の様子がよく見え、対面した者同士が手を振り合うなど、離れていても意思疎通する、良い場面が見られ、職員は入居者の、出来る事・やる気・持てる力を上手に引き出し支援している。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>理念は玄関に明示されているが、小さく長く見え辛く、象徴的な言葉をピックアップするなど、分かり易くする工夫に期待する。緊急時手当については、看護師を中心に内部研修が検討されている。食事の様子については、楽しい食事風景が見られた。感染症対策についても、インフルエンザ・MRSA・疥癬等マニュアルが整備されており、季節的なもの、地域的なもの、食中毒についても整備されると更に良いと思われる。事故報告書は、経緯・対応策・改善策が明記され、分析・検討がなされており、相談・苦情受付窓口は明示されている。今後、会議等では、職員が活発に意見交換できる様に、意見の引き出し方の工夫に期待する。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>会議の時、自己評価項目を全員に配布し、話し合ったものを、管理者が集約されており、前回の評価結果を参考に、改善に向けた話し合いが行われている。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>運営推進会議では、ホームの活動状況・前回の意見の評価・要望・助言等の結果報告などがされている。参加メンバーは、利用者代表・家族代表・区長・老人会長・市職員と多彩である。当会議の中で、介護認定・介護の方法の説明などを行ってみたいとの意見が出され、近くのホームと合同で協議・検討されるなど、意見の反映もみられる。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>事故報告書等は、家族へも報告されている。玄関には意見箱が設置してあるが、ほとんど利用がない。家族には感謝される事の方が多いが、現在、個々の家族が意見を出し合えるような家族会はない。家族は、意見や不満・苦情等を言にくいという事を理解し、ご家族が感謝しながらも、言いたい事・気になる事は言って貰える様な事業所・職員側の積極的な場面作りの取り組みに期待する。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域の自治会へ加入し、清掃活動に参加したり、大浜地区運動会に参加するなど、相互交流が盛んに行われている。地域の小学校の学習活動も受け入れ、あや取り・けん玉・風船バレーなど共に興じ、世代を超えた交流にも励み、入居者の楽しみの支援となっている。又、福江祭りで、市職員が入居者の目の前で踊りを披露し、入居者が楽しみ喜ぶ姿が広報から窺えた。</p>

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
		地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	家庭的な雰囲気の中で、地域交流のもと、人権を尊重し自立支援を促し、信頼関係を保ちながら誠意を持って支援していくという様な理念が掲げられている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝のミーティングの時、理念を唱和されている。又、職員は、日々のケアを実践していく中で、理念を振り返っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会へ加入し、清掃活動や地区敬老会の出し物に参加するなど交流は活発である。ホーム便りは学校・区長に配布され、小学校の学習活動も受け入れている。福江祭りでは、市職員の踊りを入居者の前で踊ってくれるなど、親しい交流が行われ、地域の行事にも、積極的に参加している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義は、管理者から職員に伝えられている。前回挙げられた改善項目は、優先順位に改善計画シートを作成し、改善に取り組んでいる。改善途中の項目についても、引き続き取り組んでいく姿勢が見られた。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、その意義と目的がよく理解され、サービスの質の向上に反映していく姿勢が見られている。会議での意見は、次回までには検討し、報告されている。今後は、自己評価の取り組み状況・外部評価の結果等、報告してモニターして頂くなど、会議と評価を一体的に活かした相乗効果に期待する。		

グループホーム 翁頭

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の研修等には、積極的に参加している。今後は、事業所側の困った事等、積極的に実情を訴え、市と協働していく事に期待する。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ご家族面会時には、入居者の日頃の状況や暮らしぶりが伝えられ、月1度の請求時にも日々の心身の状況などが報告されている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱は玄関に設置してあるが、利用はない。又、運営推進会議にご家族代表の参加はあるが、ご家族同士で話し合う機会の家族会は開かれていない。		毎月の報告文書の中に、毎月テーマを決めるなどして、一言ずつ「良い事・悪い事・こうして欲しい事」などのアンケートを同封し、返事を意見箱に入れて頂いたり、ご家族だけで話し合う時間が設けられた家族会など、意見を言い易い場面作りの工夫に期待する。
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	入居者への影響が、最小限に済むような努力がなされている。離職前には、主任の指導の下、悩み等の聴取が行われたり、やむを得ず退職になった場合は、1ヶ月位の引継ぎ期間を設けている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の外部研修の際は、勤務調整をしながら、できるだけ参加出来るように配慮している。ケアマネージャーや、計画作成担当者による、自主的内部研修も行われているが、研修項目を年間で系統立て、効果的・計画的に行うまでには至っていない。		内部研修については、年間を通して計画的・効果的に行い、職員の意識・技術の向上に期待する。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	具体的な同業者との交流の機会や、ネットワーク作りについては現在計画之中である。		計画中の、近隣同業者との宿泊交換交流を促進する等、それぞれの意見交換を活発にし、点から線へ繋がるネットワーク作りを視野に入れ、協働した質の向上への取り組みに期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>ホームを知っている方や評判を聞かれた方が、面談・ホーム見学の後、入居を希望される事が多い。馴染むまでは、観察・見守りをしながら、初めのうちはご家族に来てもらったり、泊まってもらったりと、徐々に馴染めるよう安心の支援に繋げている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は、入居者の笑顔を何よりの励みとし、意欲をそそられている。入居者がリハビリパンツから、布パンツに自立されると、ご本人の喜び・自信回復はもとより、職員もやり甲斐を感じ、喜びを共有している。</p>		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>アセスメントシートは、狭い意味の介護の為のアセスメントのみならず、生活をする為のアセスメントに改定中である。詳しく細やかに、本人の状態像の把握の積み重ねが期待出来る。</p>		<p>職員全員が一人ひとりの思いや意向に関心を払い、把握しようと努める事が大切で、把握した思いや意向は、改善途中のアセスメントに記録し、積み重ねていく事が望まれる。その人の状態像をよく知り、潜在能力を引き出し、エンパワーメントに働きかけていく事に期待する。</p>
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>アセスメントシートは、センター方式を使用しており、本人の状態像の把握の積み重ねが、ケアプランの目標となるよう、きめ細やかな仕組みを利用している。又、ケアプランの目標は、日々のケアの実践の記録にも繋がっており、毎月検討される。しかし、未だ全職員に定着するまでには及んでいない。</p>		<p>様式の改定は、まだ著に着いたばかりである。早くその方式が全職員に定着・熟達し、介護計画に反映され、入居者の生活向上に繋がるよう期待する。又、記録に時間を取られすぎないよう、書きやすく・見やすく・効果的に改定される事が望ましい。</p>
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画には3ヶ月の期間が設定されており、見直しが行われている。状態変化時は、スタッフノート等を活用したり、職員会議を開いたりするなど、随時見直しに繋げている。</p>		

グループホーム 翁頭

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ご本人やご家族の状況に応じ、通院の支援を行っている。墓参りに家に帰るなど、個別の支援もある。今後は、現在、利用されていない機械浴の設備を、地域の在宅で介護しているご家族に利用して頂く様な機会を、検討されると更に良いのではないかと。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望により家族が、病院へ受診の為に入居者を連れて行かれる時の為に、職員が通院の支援を行った情報を、密に知らせている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現時点の方針としては、重度化に対応していない。		ホームの方針を統一化し、終末を納得して迎えて頂く為にも、ご本人・ご家族から希望を聞き、早い段階からホームの方針を説明し、把握した希望を文書にした同意書等を準備しておく事が望まれる。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	居室への案内の折は、ノックをして入居者の許可が得られていた。職員のトイレへの促しは、さりげない言葉かけであった。しかし、広報には写真の掲載が多く、学校・区長等に配布されているが、ご家族等に了解を頂くという配慮には及んでいない。		配布される広報の写真などは、個人と特定されない物を掲載したり、掲載する時は了解を得るなどの配慮が望まれる。
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、一人ひとりの体調に配慮しながら、畑の野菜作り・手芸を楽しむ・ゆっくり休みたいなどその日その時のご本人の気持ちを尊重した支援をしている。		

グループホーム 翁頭

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員も、入居者と同じ食卓に着き、「硬いですか？柔らかいですか？」など語りかけながら、一緒に食事を楽しまれていた。食後の後片付けなどは、入居者それぞれの力を活かしながら、職員と共に行われていた。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴を拒む方が多いが、言葉かけや対応の工夫により支援している。週2回入浴のない日があるが、希望があれば入浴出来る。身体状況によっては、入浴困難な方にも対応出来るように、機械浴の設備も整えられている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	畑の芋作りには、収穫の喜びや食する楽しみがある。広い廊下は歩行訓練もできる。又、誕生会・節分・ソーメン流し・クリスマス会・餅つき等、季節の行事の支援がなされており、小学生との交流は、昔の遊びや知恵の伝達という潜在能力へ働きかける良い機会になると共に、入居者も喜ばれている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物や散歩、天気の良い日は屋外でのレクリエーションがあったり、畑や花畑へ出かける事もある。寒い日でもデッキで日向ぼっこが出来ようになっている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	一時的に鍵を掛けていた時期があったが、職員の見守りやチームプレーにより、安全を確保しながら自由な暮らしの支援に繋げるようにしている。又、帰宅願望のあった方が、現在は落ち着かれているという経緯もある。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の防災訓練は、夜間・中間を想定し、地域の消防団・近隣住民の協力のもと行われている。しかし、災害時の連絡・役割体制の整備が検討されているが、未だ至っていない。		災害は、いつ何時起こるか分からず、災害時の連絡・役割体制の整備と共に、災害に備えた備品等の準備も望まれる。

グループホーム 翁頭

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスの良い食事が提供され、入居者の状態や嗜好に応じて、刻み食や代用食が用意されている。又、水分摂取量や、食事の一日の総量を把握している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの窓は大きく広く明るく、自然を借景とした窓からの眺めは、時間や季節の移ろいを肌で実感出来る。廊下やホールに置かれたソファーにゆったりと落ち着く入居者の姿が見られた。壁には、入居者制作の作品のきり絵が飾られている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に仏壇を置き、毎日お茶を供えている入居者もおられる。馴染みの家具・三面鏡や引き出し・小物入れ等が持ち込まれ、ご本人ご家族の写真が飾られたり、カレンダーが掛けられ、その人らしい居室となっている。又、畳間があったり、テーブルが置かれたりと、安心して落ち着ける居室の支援がなされている。		